

1 ヘルシンキ中央図書館「Oodi」(フィンランド)

平成30(2018)年開館。令和元(2019)年には、国際図書館連盟(IFLA)による「Public Library of the Year」を受賞している。通常の図書館としての機能に加えて、市民の創造活動、学習、仕事などを支援する機能が充実している。施設内には、映画館、カフェ、レストラン、スタジオ、メーカースペースなども備えている。



写真:ヘルシンキ中央図書館公式ウェブサイト

2 メイフラワー小学校(シンガポール)

シンガポールは国立図書館委員会(The National Library and Archives Board)を設置し、国による図書館の設置や読書推進、学習の奨励等が行われている。その一環として学校図書館との連携があり、Read@Schoolプログラム等を実施している。プログラムの内容は、ストーリーテリングからキッズリットクイズ(Kid's Lit Quiz: 児童文学の知識を競う国際クイズ大会)への出場を狙うことまで多岐にわたる。

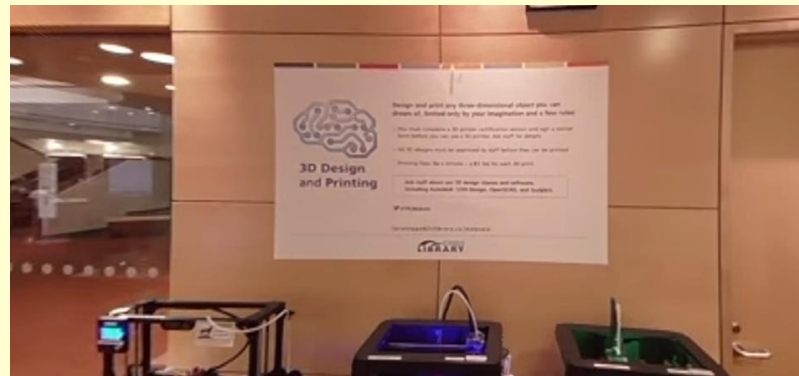


写真:メイフラワー小学校公式ウェブサイト

報告書骨子案の検討における参考：先進事例

3 トロントレファレンス図書館（カナダ）

トロント市にある100館の中心的な図書館である。移民が多い地域であることから、40以上の言語による図書、電子書籍などのコレクションも揃える。また、新たに移住した市民を支援する専門的スタッフが配置されていたり、英語学習クラスなどを開講したりしている。施設内には、ピアノ練習室、メーカースペース、ユースハブ（若者向けスペース）などを備えている。



写真：トロント公共図書館公式YouTube

4 フロリダ州パークランド マージョリー・ストーンマン・ダグラス高校（アメリカ）

学校内で事件が発生したこの高校では、事件の被害者である生徒がそのトラウマを乗り越える手助けを学校図書館メディアスペシャリストが行った。学校図書館内に、訓練されたセラピードッグと触れ合える空間や、瞑想ができる「禅の部屋」を設けることで、地域の癒しのリーダー的存在となり、このメディアスペシャリストはアメリカ図書館協会（ALA）の「I Love My Librarian Award（私の司書が大好き賞）」を受賞。

出所：State of America's Libraries: A Snapshot of 2024

5 テキサス州サンアントニオ トム・C・クラーク高校（アメリカ）

学校司書が社会科の教師と協力してカリキュラムに沿った形で「フリーダム・ウォーク」というゲームを作り、昼休みに学校の中庭で実施した。この「フリーダム・ウォーク」とは、憲法で保障された権利（表現の自由等）、検閲用語、学区による蔵書構築をめぐる方針、有権者登録と教育等について学べるもので、約500人の生徒に提供した。この取組はアメリカ図書館協会（ALA）の「サラ・ジャファリアン学校図書館プログラム賞」を受賞。

出所：State of America's Libraries: A Snapshot of 2024